

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆信用金庫17行が赤字に 金利上昇で債券含み損、中小・零細企業に逆風

・地域の中小・零細企業などの資金を支える信用金庫が苦境に陥っている。2026年3月期は全国で17信金が最終赤字になり、前の期の5信金から急増。金利上昇で保有債券の価値が下がり、売却損や含み損が膨らんでいる。全国254信金の開示資料を日本経済新聞が集計。約半数が減益で、純利益の合計は2424億円と前の期から16%減った。

◆国債や株、即時決済可能に 政府・日銀がブロックチェーン整備へ始動

・政府・日銀による次世代決済インフラ構想が今夏に動き始める。まずは国債や株式の資金取引を24時間いつでも即時に完結できる仕組みを目指す。ブロックチェーン(分散型台帳)技術の実証実験はこれまでもあったが、導入に向けた具体的な日程が固まるのは初めて。金融庁と財務省、日銀、金融機関などの検討会で2027年初にも整備計画をまとめる。

◆7月の企業向けサービス価格3.6%上昇 伸び率拡大

・日銀が発表した7月の企業向けサービス価格指数(速報値、2020年平均=100)は115.1となり、前年同月比で3.6%上昇。伸び率は6月(3.4%)から拡大。企業向けサービス価格指数は企業間で取引するサービスの価格動向を表す。貨物輸送代金やITサービス料などが含まれ、消費者物価指数に影響。運輸・郵便が6.4%上昇。6月から0.8ポイント伸び率が拡大。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆白物家電出荷額、7月は10%増 省エネ基準引き上げでエアコン好調

・日本電機工業会は7月の白物家電の国内出荷額は前年同月比10.0%増の2847億円だったと発表。出荷額をけん引するルームエアコンでは2027年度の省エネ基準引き上げを見据えた駆け込み需要があった。エアコンの出荷台数は14.1%増の146万6000台、出荷額は18.8%増の1400億円。家電購入補助制度を利用、省エネ性能の高い高価格帯製品購入増。

◆マンションの投機取引抑制へ、国交省が税制改正要望 高騰に歯止め

・国土交通省は2027年度の税制改正要望に新築マンションの高騰対策を盛り込む方針を固めた。実需に基づかないマンションの投機的な取引が都市部の不動産価格の上昇につながっていることに対応。具体的な制度は与党税制調査会で年末にかけて議論。現在はマンションを売却する場合、所有期間が5年以下なら譲渡所得税が重くなる仕組みがある。

◆7月首都圏新築戸建て 東京都3カ月連続上昇、最高額を更新

・東京カンテイが公表した7月の「市況レポート」によると、首都圏の新築一戸建て住宅の平均価格は前月比4.4%増の5239万円と再び上昇し、2014年4月の集計開始以降で最高価格。近畿圏は同0.2%増の3944万円とわずかに上昇、中部圏は同1.7%減の3540万円と3カ月ぶりに下落。東京都が6763万円(5.8%増)と3カ月連続で上昇し最高価格を更新。

《 注目商品 》

■日東工器、データセンター冷却装置の配管向け部品 従来より2割安

・データセンターの冷却装置の配管に使われる「継ぎ手」の新製品を発売すると発表。材料に真ちゅうを使うことで、従来のステンレス製品より価格を2割ほど抑えた。真ちゅうはステンレスよりさびやすいとされるが、表面にメッキ処理を施さびないように工夫。



■東芝ライフスタイル、自動ゴミ収集機能付きコードレススティック掃除機

・お手入れとゴミ捨ての手軽さを追求した自動ゴミ収集機能付きのコードレススティック掃除機「VC-SL55D」「VC-SL45D」を10月上旬より発売。フィルターの自動洗浄効果を高めた「オートエアー洗浄 plus」を搭載。お手入れとゴミ捨てが約70日に1回で済む。



■永大産業、天板・パネル厚10mmのキッチン

・ワークトップとサイドパネルの厚みを10mmまで薄くしたノイズレスデザインの新キッチン。ワークトップはステンレス、メラミン、セラミック、人造石の4種類をラインナップ。ワークトップと扉を同柄で統一できる「キューブスタイル」に対応し、より一体感のあるデザインを実現。

